福島県立博物館常設展示室の近世のコーナーにある「若松大町一之町 町並」復元模型」は、
現在の大町四つ角から東側の通りを再現しています。
県立博物館の展示で江戸時代の若松城下をイメージしたらまちなかに出かけてみませんか。
点在する江戸時代や明治時代に建てられた建物が当時の暮らしを教えてくれます。

大須賀清光筆「若松城下図屏風」(部分)福島県立博物館蔵

特別公開 会津の絵画 城内編

福島県立博物館

企画展「会津の絵画～福島県立博物館収蔵品を中心に～」

会期：令和3年4月24日(土)～6月27日(日)
観覧料：800円、高校生以下無料　＊常設展もご覧いただけます

雪村、遠澤、永海、香村、秋琴、蕉雨、芋銭、柏亭、青嵐、玉水、松石…。
会津ゆかりの絵画を一堂にご覧いただきます。

若松城三の丸跡に建つ総合博物館。常設展示室では福島県の旧石器時代から
現代までの歴史・文化と福島の自然を展示しています。近世のコーナーでは、
会津藩の学問や若松城下のまちなみ、農村の暮らしや文化もご紹介しています。

■開館時間／9:30～17:00(入館は16:30まで)　■休館日／毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日
■入館料／常設展は大人280円、高校生以下無料（企画展は別料金。詳細はwebサイトをご確認ください）

若松城天守閣郷土博物館

収蔵品展「会津松平家」

会期：令和3年4月10日(土)～5月11日(火)
観覧料：通常料金でご覧いただけます

保科正之に始まる会津松平家を紹介。土津霊神(保科正之)画像など
福島県指定文化財になっている歴代会津藩主の肖像画を中心に構成します。

戊辰戦争で一ヶ月にわたる籠城戦を続けた若松城は難攻不落の名城です。
明治7年(1874)石垣を残して取り壊されましたが、多くの方の寄付などにより昭和40年に再建されました。
平成23年に瓦を赤瓦にふき替え幕末の姿を甦らせています。天守閣内の博物館では会津藩の歴史や文化を展示しています。

■開城時間／8:30～17:00(入城は16:30まで)　■休館日／無休
■入場料／大人410円、小人150円（茶室麟閣とのセット券、団体料金はWebサイトをご確認ください）

■会津若松駅から約3km　タクシーで約10分
■会津若松駅から
まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分
まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分
(共に鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

●車椅子使用者用駐車場
博物館西側「鶴ヶ城三の丸」バス停そば　2台
一般駐車場内博物館入り口側　3台

福島県立博物館　Fukushima Museum
お問い合わせ　TEL0242-28-6000　FAX0242-28-5986
〒965-0807　会津若松市城東町1-25
HP　https://general-museum.fcs.ed.jp　e-mail　general-museum@fcs.ed.jp

若松城下であじわう

会津の絵画・まちかたの暮らし

令和2年度 文化庁 博物館等を中核とした文化クラスター推進事業
福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」
若松城下まちなか連携事業
文化庁

江戸時代、明治時代の若松城下はどんなまち？

「若松大町一之町 町並」復元模型(福島県立博物館蔵)

福島県立博物館を出て、若松城へ、まちなかへ。

まちなかには町方の記憶が。

「若松大町一之町 町並」
復元模型(福島県立博物館蔵)

個人蔵

若松城下の大町一之町は、武士や商人が行き交う城下一の繁華街。
会津五街道が行き交う交通の重要ポイントで商業の中心地でした。
城下町特有のカギ状に道が交差する辻には、さまざまな御触れが掲げられる
高札場と火の見櫓がシンボルのように建ち、道の中央に用水路が流れていました。

若松で いちばん古い お店へ タイムスリップ!(竹問屋)

戊辰の戦火をまぬがれて残った貴重な木造の竹問屋、店構えが時代感を醸し出します。

一之町の

竹藤 国登録有形文化財

(民芸・喫茶)

Tel：0242-22-1068

商家の工夫「しとみ戸」

店先の扉は、間口を有効に使うため、左右に開くのではなく上にある戸袋に上げて収納します。三枚に分かれた扉を順に降ろし店を閉じます。全国的にも、「しとみ戸」の現存は珍しいようです。

竹割りの道具

町屋の多くは「うなぎの寝床」

江戸時代、間口三間ごとに間口税が課せられていたため、多くの商家は、店間口が三間、奥行きは二十間ほどと長い「うなぎの寝床」と呼ばれる短冊形の敷地で軒を連ねていました。『竹藤』は、二軒分の間口で約七間ありますが、扱う竹材の運び込みや作業場の確保のためとおもわれます。

「土間」には理由がある

竹は乾燥しすぎると竹特有のしなりがなくなり、作業上の裂きも難しくなります。竹を土間に置くことで適度の湿度が保たれ、傷まずに長持ちしました。その為、竹藤では店頭の接客スペース、その奥の作業場、蔵など土間を多く残しています。

大店の暮らし(おおだな)をぶり体感しよう!

大町竪丁の

福西本店 国登録有形文化財

(建物や展示の見学、お土産)

Tel:090-9422-2924

日本建築の粋は格式のある床の間にある

福西本店には15もの床の間があります。この床の間は、部屋の格に応じて床柱や付書院、違い棚などに違いがあり、掛物(書画)を組み合わせる楽しみは、洋風の美術館では味わえない格別のものがあります。その格式は茶道や華道、書道の"真行草"に通じます。

離れ：庭を臨む瀟洒な数寄屋造りです

福西本店で最後に建てられたのが「離れ」。十代善徳さんは中風で倒れ、息子新吉に大きな期待をかけます。そして、昭和6年、跡取りがお嫁さんを迎えるハレのひとときを。その新婚の住居として建てたのが「離れ」、手の込んだ蚊帳釣りの金具や欄間の文様に父親の喜びが伝わるようです。

蚊帳吊り金具

黒柿の座敷蔵：福西家の当主が住まう格の高い座敷です

八代善運さん、お名前も大生も運のよい人。戊辰戦争で痛んだ家業を再興し、息子三人は銀行や漆器、味噌醤油にまで事業を拡げ、母の米寿と自分の古稀の祝いを重ね、家屋の完成を見届け、翌年82歳の大往生を遂げたのです。その善運さんが建てた座敷蔵は総黒柿の豪勢さです。

綿ではじまり、銀行にまで進出した親子三代の豪商が建てた商家造りが楽しめます。

酒神様が見守る杜氏の技をあじわう!

大和町の

嘉永蔵 国登録有形文化財

(末廣酒造)

Tel：0242-27-0002

度重なる災厄を乗り越えた木造三階建のランドマーク

末廣酒造嘉永蔵を営む新城家は幕末の嘉永3年に本家より分家独立、安政6年(1859)に現在地で店を構えました。戊辰戦争により家財を焼失し、明治2～3年、新たに蔵を建築し酒造を再開。その後、明治39年の大和町大火事で一つの蔵を残して再び焼失しました。翌年仕込み蔵と米蔵を再建、主屋はこの大火から復興した明治42年の建設です。当初二階建でしたが、大正11年に三階部分を増築、天井高のある吹き抜けが生まれました。

明治・大正の伝統的な蔵と木造三階建ての連なりが特徴的な若松きっての酒造家です。

特別公開 会津の絵画 まちなか編

「四柳展」福西本店・竹藤共同企画

福西本店

会期：令和3年4月24日(土)～5月13日(木)

入館料　大人300円　中高生200円　小学生100円

伊藤柳州の山水図屏風や長尾柳崖(ながおりゅうがい)の暁天霽雪(ぎょうてんせいせつ)図などをご覧いただきます。

長尾柳崖

竹藤

会期：令和3年4月24日(土)～6月27日(日)

入場無料　"たけとう茶屋"でひと息つけるティータイムをお楽しみください。

珍しい高橋暁柳(たかはしぎょうりゅう)の蓬莱山(ほうらいさん)図や群鶴図屏風、高士喫茶図屏風をご覧いただきます。

高橋暁柳

末廣酒造 嘉永蔵

会期：令和3年5月14日(金)～6月6日(日)

入場無料　＊ご来場時に見学をお申し出ください。(時間制限・人数制限があります)

神棚の間にある「勧進帳 安宅の関図」絵馬の作者・石川桂堂が描いた新城家当主の肖像画など、通常非公開資料を建物内の展示室で特別公開します。

石川桂堂「勧進帳 安宅の関図」

いい水があるからこそ

主屋の吹き抜けには井戸が残っています。深さは約7メートル。会津若松市街地の東方に位置する背炙山からの伏流水をくみ上げています。昭和7年(1932)から昭和30年代まで、この井戸から汲み上げた水を仕込み水として使ってきました。香り高い銘酒をつくってきた命の水が、今も水面をきらめかせています。

吹き抜けに残る井戸

代々の守護をあおいだ酒神様

主屋の入口を入ってすぐ右手は大きな神棚のある部屋。神棚には天照大御神とともに日本酒の神様である松尾大神も祀られています。神様を踏んではいけないと、この神棚の上には部屋を設けていません。末廣酒造の酒造りと訪れるすべての人を見守り続けている神様です。

スケッチ：一ノ瀬義正
©SASE DESIGN OFFICE 2021